HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中国における教員の健康問題
Author(s)	王, 穎
Citation	北海道大学大学院教育学研究科紀要, 88, 303-306
Issue Date	2003-02
DOI	https://doi.org/10.14943/b.edu.88.303
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/28892
Type	departmental bulletin paper
File Information	88_P303-306.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学大学院教育学研究科
紀 要 第88号 2003年 2 月

中国における教員の健康問題

王 穎*

A Brief Review of Health Problems among Teachers in China

Ying WANG

【要旨】本稿は，最近の中国における教員の労働と健康問題について，中国でのいくつかの報告や調査に基づいて述べた。まず，教員の平均労働時間が長く，職業上のプレッシャーが大きく，教員の健康に影響を与える原因になっていることが分かった。また，職業上のプレッシャーの源として学校での人間関係，生徒への教育などがあることが分かった。最後に，教員のメンタルヘルス問題についての調査を紹介した。

【キーワード】中国，教員，健康，メンタルヘルス，職業上のプレッシャー

1．はじめに

現在，中国では一人っ子政策が実施され，共働きの夫婦が多くなり，特に近年は，進学競争が激しくなり，教育熱心な親が増えてきた。このような状況で教員の負担も大きくなり，教員の過労と心身の病気の発生，心理的負担の増加が社会問題となっている。そこで，本論文では中国における教員の健康問題について最近の中国での報道や調査について概説する。

2．教員の労働と健康の実態

中国教育報[1]によれば，中国の小・中学校の教員の平均労働時間は１日9.67時間で，ほかの公務員と比べて1.67時間長い。また，睡眠時間は，１時間少なく，娯楽時間は0.5時間少ない。年間の所定外労働時間が420時間に達しているという長時間労働の実態も明らかにしており，そのために教員の過労と心身の疾病の発生，心理的負担が増加しており，その背景に学校間，教員間の進学競争があると報じている。

雲南省教育委員会のホームページ[2]には，「教員にも職業病があることが明らかになった」として，次のような調査結果を紹介している。雲南平安健康診断センターは８ヶ所の学校（専門学校，中学校）の800名の教員の総合的な健康診断を行った。その結果，教員の心血管系疾病の罹患率が一般公務員より高く，特に女性教員については，乳腺小葉増生，子宮頸管炎，子宮筋腫が他の公務員より発生率が高いことが分かった。

調査責任者によれば，心血管系疾病は十分な休憩がとれず，長時間働き，また，神経・大脳

* 北海道大学大学院教育学研究科修士課程

皮質が常に高度の興奮状態に置かれていることにかかわっており，女性の子宮や乳腺の疾病は長期の緊張状態によって過剰疲労，神経系統の失調が起こった結果，内分泌に混乱を来したことに関連すると考えられる。また，これらの疾病は教員が常に机に向かったまま，作業を続けることや，長時間，脳を酷使することが関与していると思われると述べている。

2001年10月17日の新華社によれば，先日行われた杭州市教育研究所[3]の調査で，杭州市の中学校教員は自分の職業のプレッシャーが大きいと感じている者が多く，この状況が直接に彼らたちの仕事に対する積極性に影響を与えていることが分かった。調査は杭州市の31カ所の小・中学校教員を対象として心理，職業生活上のプレッシャー，精神衛生などの方面から調査が行われた。その結果は，13.25%の教員が自分の仕事があまり好きではなく，50.8%の教員は機会があれば職を変わりたいと考えている，この教職が好きで，ずっとやりたいと考える職員が49.2%しかいないことを示している。

また，この調査では，76%の教員が仕事のプレッシャーが大きいと感じており，これが職業生活上の大きな問題になっている。特に，高校教員，男性教員，40歳以下の教員，卒業クラスの担当教員，クラスの担当教員及び未婚教員のストレス発生率が高いことが明らかになっている。

また，心理問題の調査結果もあまり楽観視できるものではない。仕事の量が多い，学生を教育しにくい，給料が低い，進学に関するプレッシャーが大きい，教員の間に競争が激しいことなどが教員の職業上の大きな問題となっている。調査対象の教員のうち，13%の教員に様々な精神衛生問題が存在していた。そのうち，中学校が一番多く15.6%で，高校が13.4%で，小学校が９%であった。

また，最近，中国初めての“教員心理問題のホットライン”が杭州市で開設された。ここでは，専門指導員が電話を通し，教員の悩みを聞いたり，解決法を相談したりして，教員のいいサポートとなったことを紹介している。

広東省教育工会[4]が2002年６月に省内19ヶ所の高校8417名の教員について「広東省高校教師健康状況及び影響要因の調査」を行っている。対象者は健康程度により，健康，準健康，前臨床状態及び疾病状態の４種類に分けられたが，健康が10.4%で，準健康が45.55%で，前臨床状態が23.63%で，疾病状態が20.42%であった。

また，重度準健康状態の発生率は，男性よりも女性のほうが高く，特に，40歳以下の女性教員に高率に認められた。

高校教員に準健康の発生率が高い原因は様々であるが，１つは仕事の圧力であり，もう１つは教員の「準健康」に関する認識の不足である。調査を受けた教員の中には1/3の人は自分が準健康状態であると認識している者がいるが，準健康状態を知っている人が半分でしかいない。

また，学校の体育施設の不足も健康に影響を与える1つの原因となっている。

３．教員の疾病の特徴

広東省雑誌社[5]の「教師保健」にまとめられている教員の疾病の特徴は，以下の通りである。

① 悪性新生物が多い，特に消化管悪性新生物が教員の生命に大きく影響を与えている。

② 脳心血管疾病が第二位の死因である。教員の仕事の負担が重く，平均労働時間が10時間以上であり，通常スポーツに参加することも少ない。資料によると，スポーツに参加しない中学校教員および小学校教員がそれぞれ60.46%，70.6%であった。大部分の教員がスポー

ツしたいが，時間がとれなく，心脳血管弾力性が弱いため，高血圧の罹患率が高くなったことが分かっている。

③ 消化系統の疾病が多い。例えば，胃と十二指腸潰瘍および慢性胃炎の罹患率が相当に高い。ある資料では教員の胃病の罹患率は15～25%である。これは教員の精神緊張に関わって発生していると報告されている。

④ ある地方では教員の中で肝臓病の患者が増加した。特にB型肝炎は感染の機会が多く，治療の結果もあまり期待できない。

⑤ 胆石症の罹患率がかなり高い。教員の胆石症の罹患率は5.7～8.1%であった。これは教員が座る，立つ時間が長い，運動が少ない，および，心身状態が慢性的に不健康であるからである。

⑥ 教員の罹患した疾病は，慢性病が多く，かつ一人が多種の疾病を罹患する場合が少なくない。

特に，中年教員は親を介護し，子供を養育し，経済もあまり余裕ではないため，常に家族の衣食問題に気をつかう。特に中年女性教員は仕事と家庭を両立させるため，精神及び体力の負担が大きい。

4．教員のメンタルヘルスの原因と対策

楊蓮清[6]は，中国各地におけるいくつかの教員の心理健康問題を紹介し，その対応について，以下のように述べている。

上海市の小学校教員におけるメンタルヘルスの調査によれば，メンタルヘルス上の問題が48%の教員に認められ，約12%が重度の心理状態であった。別の調査によれば，上海のある区の800名の教員の中で約50%の教員が慢性病を罹患していることがわかった。

また，武漢では，ある中学校の102名教員のうち，心，肺，胃，肝臓の疾病に罹患した者が57人を占めた。上海にある小学校に所属する67名教員のうち，60人が高血圧，心臓病などの疾病を罹患していた。これらの各種疾病の原因として心理的な不健康も関与していると考えられ，教員の身体的健康と同時に心理的健康も重視すべきと考えられている。

教員の心理健康問題を引き起こす原因として仕事のプレッシャーが強い。仕事の質的，量的負担が過重，人間関係が複雑などがある。多くの資料は，女性教員が男性教員より仕事のプレッシャーが大きいこと，職歴の短い教員が職歴の長い教員より仕事のプレッシャーが大きいことを指摘している。

遼寧省の調査によれば，教員の残業時間は平均して1日50分以上であり，商業労働者の6.3倍であり，工業労働者の5倍である。教員の多くは1日平均の労働時間が10時間であった。また，農村地区の教員は都市の教員より負担が大きく，小学校教員は中学校教員より負担が大きい。例えば，ある県の8校106名の教員の1日平均労働時間は10.37時間であり，中年教員の労働時間が更に長い。

教員の人間関係が複雑さが，人格障害の問題を引き起こしている。ある学校の45人の教員の中で，88.9%は人間関係が一番難しいと考えているという調査結果は，教員の中に人間関係の問題が普遍的に存在することを示している。

教員のメンタルヘルス状況は，教育の質量と効率，教員の仕事の積極性に影響を与える。優

秀な教員として優れた専門知識を持つことだけではなく，さらに，健全な人格および健康なメンタルヘルス状態を備えることは重要である。そして，教員の仕事上のプレッシャーを調整する方法として，まず，仕事上のプレッシャーを正しく認識すること必要だろう。仕事上のプレッシャーの中に，危機が含まれるともに，それを克服することによって，向上する機会であることを認識し，チャレンジの勇気を引き起こすことも重要である。次に，教員が常に自分の教育における態度を検討し，厳しすぎる管理方式を改め，教育上の専門的の素養を高めることが重要である。また，社会の支持を得ること，仕事上のプレッシャーが大きくと感じた時，親類，友達，先輩，メンタルヘルス専門医に自分の悩みを訴えたり，解決法を相談したりすることが大切である。そのほか，楽観的な気持ちを持ち，感情のコントロール力を高め，意識調整水準を高める，生徒や同僚への言葉使いを配慮することなどの思想修養を高めることが不可欠である。

以上の報告や調査から明らかになった問題は，それぞれの地方だけの問題ではなく，中国全国で普遍的な意義を持つものであろう。中国では，子どもの教育が極めて重要の地位におかれている。多くの親は，子どもが小・中学校の時代にいい教育が受けられるかどうかが子どもの成長及び一生の成功に密接に繋がると考えている。そこで，親たちの教員への期待が極めて高く，進学に関する様々なことが教員のストレスの原因になる。

教員の職業上のプレッシャーを減らすためには，教員自身が生徒の学習だけに止まらず，生徒の生活を関心を持ち，生徒の興味を把握し，積極的に生徒の活動を参加することなどによって，互いに理解できる，教員と生徒の関係を築くことが大切であろう。

しかし，教員個人の能力によってだけでは解決できないことがあるため，学校の管理者が重要な責任を持つと考えられる。

四川省の調査[6]は，四川省のある学校では，教員が悩んだ時，45人のうち，71%の教員が学校の管理者と相談したくない，88.9%の教員が管理者に相談をした時に叱責を受けたことを紹介している。管理者側は教員を単に授業の質量のみによって評価する傾向を持っている。自校の進学率を守り，高めるため，ますます教員へのプレッシャーを増加させることが多い。このような状況は，中国の多くの学校で存在する問題だと考えられ，そのことが教員のメンタルヘルスの問題を引き起こしている。したがって，学校の管理者として，よく教員の精神状態を観察することが不可欠である。異常を見つけると，積極的に原因を尋ねたり，相談したりなどによって，教員と親しい関係を築くようにすることが必要であろう。これらの努力は教員を教育に熱心にさせることにも役立つと考えられる。

そのほか，仕事の待遇を高め，仕事の量を減らすと同時に社会に教員の仕事を理解させたり，サポート体制を築くすることが不可欠であろう。

参考文献

1）中国教育報「中国教育報呼喩為教師減圧」2000.9.22　中新網より
2）雲南教育委員会「検査表明：教師也有職業病」雲南教育委員会ホームページ　2001
3）張楽：「教師必読」新華社　2001.10.18
4）新快報「広東省高校教師：両成人病着，両成人快病了」三九健康網　2002
5）張前徳，李鉄軍，陳東論：「教師保健」
6）楊蓮清：「教育心理健康問題的原因及対策」中国現代教育雑誌社　2001